

平成30年度 第3回大和市障がい者福祉計画審議会 会議録（要旨）

- 1 日時 平成31年3月19日（火） 14時00分～15時35分
- 2 場所 大和市保健福祉センター5階 501会議室
- 3 出席者 委員9名
隅河内会長、関水職務代理、守田委員、佐藤委員、内藤委員、春日委員
重松委員、鳥海委員、遠藤委員
- 4 傍聴人 なし
- 5 次第
 - (1) 会長挨拶
 - (2) 議題
 - ①障害者基本計画とかながわ障がい者計画（骨子案）の比較
及び 次期大和市障がい者福祉計画の構成案について
 - ②次期障がい者福祉計画の策定に係る意識調査（アンケート調査）
について
 - ③次期障がい者福祉計画の策定に係るヒアリング調査について
 - ④次期障がい者福祉計画の策定スケジュールについて
 - (3) その他
- 6 会議資料
 - 資料1-1 障害者基本計画とかながわ障がい者計画（骨子案）の比較
 - 資料1-2 次期大和市障がい者福祉計画の構成案について
 - 資料1-3 次期大和市障がい者福祉計画の構成案について
 - 資料2 意識調査（アンケート調査）の概要について
 - 資料3 ヒアリング調査の概要について
 - 資料4 障がい者福祉計画（仮称）策定スケジュール（案）

【議事（要旨）】

議題①

事務局：【議題1について、資料1-1、1-2、1-3をもとに説明】

会 長：次期計画の構成案にある方針について、どのような視点で3つに整理したのか、意図等を説明してもらいたい。

事務局：まず、方針1は現行計画と同じ内容となるが、権利擁護、理念の普及・啓発等についての内容とした。次に、方針2は社会インフラの整備や社会的な障壁の除外等、全体に関する施策についての内容とした。最後に、方針3はサービス提供など個々

に応じた支援についての内容という考え方で分類した。なお、各方針の名称は仮のものである。

委員：「アクセシビリティ」と「バリアフリー化」には違いはあるのか。

事務局：厳密な意味では多少の違いはあると思うが、計画における意味合いとしては大きな違いはないと考えている。配布した構成案では、国・県の方向性に合わせて「アクセシビリティ」という言葉を使用した。実際に計画書に記載する場合は、脚注で説明するなどわかりやすくなるよう配慮する。

委員：国・県も、これからは「アクセシビリティ」という言葉を使っていくのか。

事務局：国・県の現行計画が有効な期間は、「アクセシビリティ」という言葉を意図的に使っているので、使用していくと思われる。ただし、次の計画ではまた言葉が変わる可能性もあるので、ずっと使い続けるかは断言できない。今回に関しては、国・県が「アクセシビリティ」という言葉に統一したという意向に沿い、市の計画でも「アクセシビリティ」という言葉を使用していくことを考えている。

委員：基本理念については、教育委員会でも、インクルーシブ教育の推進などで共生社会の実現に向けて動いているところなので、理念が同じ方向を向いていることは良いと感じている。また、特別支援教育センターとの連携について等、福祉と教育の連携について計画に組み込むことはありがたいと思う。

会長：市が主体となっていく事業以外は項目立てがされていないが、例えば防災関連などは普及啓発なども重要な取り組みだと思われる。計画の中での促進的な事業の取り扱いをどのように考えているのか。

事務局：計画の柱として項目立てする内容ではないとは考えているが、権利擁護などの項目で触れることはできると考えている。各項目の細部については、今後内容を詰めていく段階で検討していきたい。

委員：全体的な流れとして意思決定支援の推進があるが、どのように実現していくか等の内容は含まれていくのか。

事務局：方針3の個別支援の推進の中で触れる予定である。

会長：権利条約では“障がいは社会が生み出すもの”という考えがあるように、誰もが自分らしく生きるための意思決定支援の推進の流れがある。相談支援の充実などと合わせてあわせて触れていけば、より意味づけもされてくると思う。

委員：意思決定支援や相談支援の充実を実現させるには、どうしてもサービス提供の人材不足問題に突き当たる。国・県での取り組みもあると思うが、市として福祉人材不足問題にどう取り組むかなどについて触れる予定はあるか。

事務局：基本的には相談支援体制の充実の項目などで人材育成の内容も入ってくるかと思う。ただし、細部の検討まで進んでいないことも事実なので、どこの項目に含むか等もあわせて、今後の審議会で検討していきたいと考えている。

会 長：人材育成については、方針3の個別支援の中に入れるのか、環境整備ということで方針2に入るのか。新しい技術であるICTの導入と並んで、福祉人材の育成は今後の政策的な課題である。市でもそこを意識して検討してもらいたい。

委 員：グループホームなどの施設を作りたくても人材がいないので作れないということもある。

会 長：計画の中に人材の充実に関する内容もどこかで触れてもらえればと思う。

委 員：構成案の方針3に「親なき後の生活支援」がカッコ書きであるが、個別の施策では「親なき後の」という観点ではどこでも触れられていない。重要な問題だと認識しているが、どこの項目で具体的に述べていくのか。

事務局：個別の施策のどれか一つで「親なき後の生活支援」に対応していくというよりは、方針3の施策全部でカバーしていくという考え方をしている。

会 長：関心のある問題なので「親なき後の生活支援」という言葉をカッコ書きで入れたいという意図だろうが、そのことだけを方針3に入れてカッコ書きで特だしするのは違和感がある。「ライフステージに応じた生活支援」については多角的な観点からの計画づくりが求められる。カッコ書きの扱いも含め方針のタイトルを検討してもらえればと思う。

議題②

事務局：【議題2について、資料2をもとに説明】

委 員：調査対象者のうち精神障がい当事者へのアンケートについて、自立支援医療を受給しているだけで福祉サービスを受けていない人も対象になり得るのか。自立支援医療の受給のみだと、障がい福祉に対する意識はあまり強くないと思われる。そうすると、回収率が下がると考えられるがどうか。

事務局：基本的にはサービスを利用しているかまでは考慮しない。回収率に対する懸念も理解でき、実際に前回の回収率はあまり良くないが、サービスを利用していない方の目線も意味があると考えている。ただし、対象者を抽出する際に、サービスを利用している、していないのどちらかに極端に偏ることは無いよう配慮はしたい。

会 長：発達障がいの方をターゲットに定めて送る、といったようなことはしないということか。

事務局：対象者を、障がいの理由まで細分化することは現時点では考えていない。検討はしたいが、システムの都合上、対象者をそこまで細分化しての抽出が難しいと思われる。

会 長：関係者や親を対象にしたアンケートを実施しないのか。

委 員：重い知的障がいだと本人が書くのは難しいだろう。

委 員：知的の場合は親が書くということか。

事務局：基本的には障がい本人がどう思っているかの調査が趣旨である。本人が書くことが難しい場合においては、親などが“本人がどう感じているか”を汲み取って回答してもらうことを前提と考えている。なので、親の目線での回答という内容は今のところ検討していない。

会 長：本人が意思表示をできない場合は、施設や学校の職員に本人がどう思っているかを推測してもらって回答するのが趣旨ということか。

委 員：他の市町村で、部分的には介護者の意見を回答する項目を設けた自治体もあったと記憶している。

医療ケアの部分では、その人がどこで暮らしているのか、本当はどこで暮らしたいのかが見えてくる設問にしてほしい。

事務局：親に対する意見については、別途ヒアリング調査も行うので、そこでも聴取できると考えている。意識調査とヒアリング調査を合わせて傾向を読み取れるようにしていきたい。医療ケアについては意見を参考にさせていただく。

会 長：意思決定支援のガイドラインなども設問内容の参考になると思う。経年変化をみるという意味で前回の調査を踏襲することも大事だが、社会の動きも反映した調査ができればよいと思う。他の市町村の良いところも取り入れて、検討してもらいたい。

議題③

事務局：【議題3について、資料3をもとに説明】

会 長：サービス提供事業者のカテゴリーで“主な提供事業”の記載があるが、ここに書いてある事業についてヒアリングするという認識でよいか。

事務局：基本的にはその通りである。ただし、それ以外のサービスについても意見があれば述べられるような設問の作りをするよう考えている。

委 員：当事者関係団体で、精神障がいの当事者で活動している団体もある。まだ立ち上がったばかりで、成長している段階なので今回対象にできるかわからないが、今後そこにヒアリングすることを検討しても良いのではないか。

会 長：こういった調査では当事者団体に聞くことが基本となる。市内に該当する団体はあるのか。現状を把握して検討してもらいたい。

会 長：サービス提供事業者の新規対象とする就労関係の事業所について、もう少し具体的に絞り込む必要があると思う。また、保育・学校カテゴリーに入っているサポート校への調査についても意義あるものだと思う。ヒアリングが実現するかはわからないが、何らかの工夫をして検討してもらいたい。

議題④

事務局：【議題4について、資料4をもとに説明】

会 長：自立支援協議会についても触れられているが、自立支援協議会での課題についても計画で取り扱えと、現場の課題も反映できて良いものになると思う。

(以降、特に意見なし。)

以上